

線形代数 II 演習

— クラメールの公式, 固有多項式・固有値 —

担当: 佐藤 弘康

例題 13.1. 次の連立方程式の解を求めよ.

$$\begin{cases} 2x + 3y + z = 1 \\ -3x + 2y + 2z = -1 \\ 5x + y - 3z = -2 \end{cases} \quad (13.1)$$

解. 連立方程式 (13.1) を行列を用いて書き直すと

$$\begin{pmatrix} 2 & 3 & 1 \\ -3 & 2 & 2 \\ 5 & 1 & -3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ -2 \end{pmatrix}$$

となる. クラメールの公式より,

$$x = \frac{\begin{vmatrix} 1 & 3 & 1 \\ -1 & 2 & 2 \\ -2 & 1 & -3 \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} 2 & 3 & 1 \\ -3 & 2 & 2 \\ 5 & 1 & -3 \end{vmatrix}}, \quad y = \frac{\begin{vmatrix} 2 & 1 & 1 \\ -3 & -1 & 2 \\ 5 & -2 & -3 \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} 2 & 3 & 1 \\ -3 & 2 & 2 \\ 5 & 1 & -3 \end{vmatrix}}, \quad z = \frac{\begin{vmatrix} 2 & 3 & 1 \\ -3 & 2 & -1 \\ 5 & 1 & -2 \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} 2 & 3 & 1 \\ -3 & 2 & 2 \\ 5 & 1 & -3 \end{vmatrix}}.$$

各行列式を計算すると

$$\begin{vmatrix} 1 & 3 & 1 \\ -1 & 2 & 2 \\ -2 & 1 & -3 \end{vmatrix} = -26, \quad \begin{vmatrix} 2 & 1 & 1 \\ -3 & -1 & 2 \\ 5 & -2 & -3 \end{vmatrix} = 26, \quad \begin{vmatrix} 2 & 3 & 1 \\ -3 & 2 & -1 \\ 5 & 1 & -2 \end{vmatrix} = -52,$$

$$\begin{vmatrix} 2 & 3 & 1 \\ -3 & 2 & 2 \\ 5 & 1 & -3 \end{vmatrix} = -26$$

であるから, (13.1) の解は $x = 1, y = -1, z = 2$.

問題 13.1. クラメールの公式を用いて, 次の連立方程式を解け. ただし, (4) において a, b, c, d, e はすべて異なるものとする.

$$(1) \begin{cases} 3x + y + z = 6 \\ 2x - 3y - 6z = 7 \\ 7x + 5y + 9z = -2 \end{cases} \quad (2) \begin{cases} 2x + y + 3z = 12 \\ x + 3y + 2z = 5 \\ 3x - 2y + z = 11 \end{cases}$$

$$(3) \begin{cases} x + y - 3z - 4w = -6 \\ 2x + y + 5z + w = -6 \\ 2x + 2y + 2z - 3w = -10 \\ 3x + 6y - 2z + w = 4 \end{cases} \quad (4) \begin{cases} x + y + z + w = 1 \\ ax + by + cz + dw = e \\ a^2x + b^2y + c^2z + d^2w = e^2 \\ a^3x + b^3y + c^3z + d^3w = e^3 \end{cases}$$

例題 13.2. 行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -2 \\ -1 & 4 & -2 \\ -1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

の固有多項式 $\Phi_A(x)$ を求めよ. また, 固有値も求めよ.

解. n 次正方行列 A の固有多項式

$$\Phi_A(x) = \det(xE_n - A)$$

で定義される n 次多項式のことである. サラスの方法を用いて $\Phi_A(x)$ を計算すると

$$\begin{aligned} \Phi_A(x) &= \begin{vmatrix} x-1 & -2 & 2 \\ 1 & x-4 & 2 \\ 1 & -1 & x-1 \end{vmatrix} \\ &= (x-1)^2(x-4) - 4 - 2 - 2(x-4) + 2(x-1) + 2(x-1) \\ &= x^3 - 6x^2 + 11x - 6. \end{aligned}$$

また, A の固有値とは $\Phi_A(x) = 0$ の解のことである. $\Phi_A(x)$ は

$$\Phi_A(x) = (x-1)(x-2)(x-3)$$

と因数分解できるので, 固有値は $1, 2, 3$ である.

問題 13.2. 次の行列 A の固有多項式 $\Phi_A(x)$ および固有値を求めよ.

$$\begin{aligned}
 (1) & \begin{pmatrix} 2 & 2 \\ 1 & 3 \end{pmatrix} & (2) & \begin{pmatrix} 1 & 2 + \sqrt{-1} \\ 2 - \sqrt{-1} & 3 \end{pmatrix} & (3) & \begin{pmatrix} 5 & -6 & -6 \\ -1 & 4 & 2 \\ 3 & -6 & -4 \end{pmatrix} \\
 (4) & \begin{pmatrix} 4 & 0 & 1 \\ 5 & 4 & 3 \\ -3 & 0 & 2 \end{pmatrix} & (5) & \begin{pmatrix} 1 & 0 & -4 \\ 0 & 5 & 4 \\ -4 & 4 & 3 \end{pmatrix}
 \end{aligned}$$

問題 13.3. A を n 次正方行列, P を n 次正則行列とすると, $\Phi_{P^{-1}AP}(x) = \Phi_A(x)$ であることを示せ.

問題 13.4. 正則行列の固有値は 0 でないことを示せ.

問題 13.5. 次のことを証明せよ.

- (1) λ が A の固有値ならば, λ は tA の固有値でもある.
- (2) 正則行列 A に対して, λ が A の固有値ならば, $\frac{1}{\lambda}$ は A^{-1} の固有値である.
- (3) 実正方行列 A に対して, $\lambda \in \mathbf{C}$ が A の固有値ならば, その複素共役 $\bar{\lambda}$ も A の固有値である.
- (4) 複素正方行列 $A = (a_{ij})$ にたいし, 行列 \bar{A} を A の各成分の複素共役をとった行列, すなわち $\bar{A} = (\bar{a}_{ij})$ と定義する. このとき, λ が A の固有値ならば, $\bar{\lambda}$ は \bar{A} の固有値である.

問題 13.6. 例題 13.2 の行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -2 \\ -1 & 4 & -2 \\ -1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, 次の問に答えよ.

- (1) 行列 A の各固有値 $\lambda = 1, 2, 3$ に対して, 方程式 $A\mathbf{x} = \lambda\mathbf{x}$ の自明でない解 \mathbf{v}_λ を一つ求めよ (\mathbf{v}_λ を固有値 λ に対する固有ベクトルとよぶ).
- (2) (1) で求めたベクトル \mathbf{v}_λ を並べてできる 3 次正方行列 $P = \begin{pmatrix} \mathbf{v}_1 & \mathbf{v}_2 & \mathbf{v}_3 \end{pmatrix}$ に対して $P^{-1}AP$ を計算せよ.